

07



田上 祐子
横浜市立大学2年

命って本当に大切に、当たり前のことなんて1つもなくて、生きるって素晴らしいことだって、東北の人たちと接するうちに心から思いました。

東北では震災から2年経った今でも、たくさんの方が苦しい思いをしています。それでも、ボランティアに来た私たちを笑顔で迎えてくれ、いろんなことを教えてくれました。自分と身近な人たちの命を大切に、毎日を楽しんで生きる。今こうして生きていることに感謝です。



06



小林 三葉
宇都宮大学3年

「私たちとつながり続けてくれないませんか」被災者の方から実際に言われた言葉です。家族や家を失った人たちの絶望は計り知れないけど、心に寄り添うことならできます。

被災者の方々が求めているのは、人と人とのつながりでした。「人がいるだけでうれしい。震災後、コミュニティは壊れてしまったからね」と。思うように進まない復興のなか、「人とつながっている実感」が生きる希望になっているんだなって感じました。



東北に行きたよ。

この夏も、ボランティアに行こう!

復興庁 東北に行きたよ

検索

www.reconstruction.go.jp/

08



斑目 美紀
麻布大学3年

現地の人とお話しをしたら「来てくれてありがとう!あなたに会えただけでうれしいわ」と本当によろこんでもらえました。

震災から2年以上経ちましたが、私たちにできることってまだまだあります。「今さら東北に行ってもな…」そんなこと、絶対ないです。東北に行けば、自分にできることきつと見つかりますから。



05



小嶋 麻那
名古屋大学3年

東北に行って、花の苗植えのお手伝いをしました。現地の方はあたたかくて、仲間といっしょに何かの役に立てることがすごくうれしくて、大きな大きな経験になりました。

東北に行こうか迷っていたり、現地で何ができるかわからなかったり、もし悩んでいるのなら仲間を巻き込んで行きましょう。行ってよかったって本当に思えるし、仲間との絆も深まりますよ。



03



窪田 真央
静岡県立大学3年

留学する前に、東北のことを知り世界の人に伝えたい。そう思って東北に行きました。実際に自分で見て、感じて、知ることができて、本当によかったです。

被災地は、実際に訪れてみないとわからないことがたくさんあります。日本人でさえこんなにも知らないことだらけなんだから、海外の人はもっと知らないはず。私は留学先で世界中から集まってくる学生一人ひとりに東北のことを伝え、彼らが国に帰って東北のことを広める手助けをしたいと思っています。



09



瀬良 兼司
日本大学3年

東北で起こったことは、日本のどこで起きてもおかしくはないんです。明日は我が身。東北を訪れ、被害を自分の身体で感じたことで、危機意識と日常への感謝が生まれました。

普段の生活では、東北は自分に関係ないかもしれない。だけど震災は、日本に住む限りどこでも起こる可能性があります。東北のいろいろな場所を見て、たくさんの人から話を聞いて、今の東北の空気を吸ってきました。それだけで危機意識が生まれるし、震災は他人事なんかじゃないって思えますよ。



01



清水 政也
東京農工大学1年

一度、東北に行ってみてください。たくさんの方のことを、感じてきてください。学生時代の今、自分を変えらるとてもいいタイミングだと思います。

陸前高田に行ったとき、壊れた建物がまだたくさん残っていた。津波の恐ろしさが伝わってきて、すごく恐くなった。でも、力強く咲いている一輪の花を見つけたとき、沈んだ気持ちがちょっと楽になった。当たり前のことが当たり前じゃないってことに、気づけたりします。



04



こじこじ
明治学院大学4年

東北の地に降り立ったとき、その静けさに驚きました。街に活気がないと、人が元気にならないと、復興なんて進まない。現地でおいしい料理を食べること、買い物をすること、話を聞くこと、私たちのちょっとした行動が復興の役に立つんです。

東北に行くこと。それだけで復興の役に立っているのです。話したこと、聞いたこと、買ったこと、あげたこと、もらったこと、そのすべてが復興につながります。





弥富彬
横浜市立大学4年

「行きたい」という想いを持つことがとっても大切です。そして、行きたいときと、行けるときが重なったときが、行動するときです。

東北のボランティアに行きたいって思っても、なかなか行動に移せない人って多いのではないのでしょうか。僕も震災が起きて1年以上、現地に行きたいという想いはあったけど何もしなかった。でも、ボランティアに「行きたい」って想う気持ちが、ボランティアのはじまりなんです。



小林三葉
宇都宮大学3年

「私たちとつながり続けてくれないませんか」被災者の方から実際に言われた言葉です。家族や家を失った人たちの絶望は計り知れないけど、心に寄り添うことならできます。

被災者の方々が求めているのは、人と人とのつながりでした。「人がいるだけでうれしい。震災後、コミュニティは壊れてしまったからね」と。思うように進まない復興のなか、「人とつながっている実感」が生きる希望になっているんだなって感じました。



小嶋麻那
名古屋大学3年

東北に行って、花の苗植えのお手伝いをしました。現地の方はあたたかくて、仲間といっしょに何かの役に立てることがすごくうれしくて、大きな大きな経験になりました。

東北に行こうか迷っていたり、現地で何ができるかわからなかったり、もし悩んでいるのなら仲間を巻き込んで行きましょう。行ってよかったって本当に思えるし、仲間との絆も深まりますよ。



浜中広助
東京経済大学3年

ぼくらは「ゆとり世代」なんて言われてるけど、東北のために、未来のために、力になれるってこと証明しましょう。

東日本大震災の被害は、「世界最大級」と言われています。その気になれば、いつでも現地に行けるし、震災の話聞くことだってできる。東北には、人生を変えるような発見と出会いが満ちています。若い感性を持っている今こそ、東北に行って大きく成長しましょう。

